

## 「湯沢市災害ハザードマップ」アンケート調査結果について

平成18年3月に作成、4月に配布した「湯沢市災害ハザードマップ」に関して、配布後約1年経過後の平成19年1月から2月に実施したアンケート調査結果について、報告するものである。

### 1. アンケートについて

#### 【目的・背景】

湯沢市では、平成18年3月にハザードマップを作成、4月に市内全戸に配布している。配布後約1年経過後の時期に、ハザードマップの認知・利用状況及び理解度についてアンケート調査を実施し、湯沢市を含めた雄物川流域における今後のハザードマップ作成及び普及活動における基礎資料とすることを目的とする。

#### 【アンケート実施主体】

湯沢河川国道事務所災害情報普及支援室  
湯沢市 総務課 総合防災班

#### 【アンケート対象】

湯沢市災害ハザードマップ配布全世帯（湯沢市全世帯）18,504部配布

#### 【アンケート方法】

町内会組織による各戸配布・郵送回収方式

#### 【アンケート期間】

平成19年1月～2月

#### 【アンケート内容】

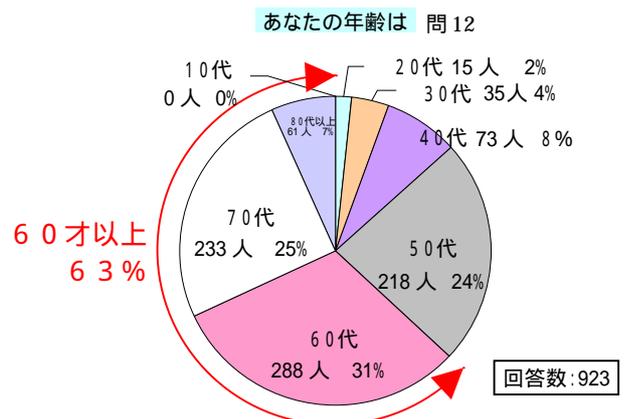
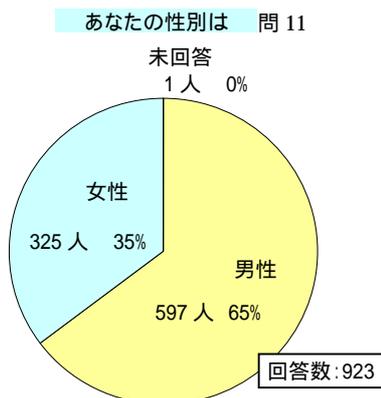
- ・ ハザードマップの認知・利用状況
- ・ ハザードマップの理解状況
- ・ 災害に対する意識状況
- ・ ハザードマップに対する意見等

### 2. アンケート回答状況について

アンケート調査は湯沢市の全世帯を対象とし、18,504部を配布し、このうち約5%の923通の回答があった。

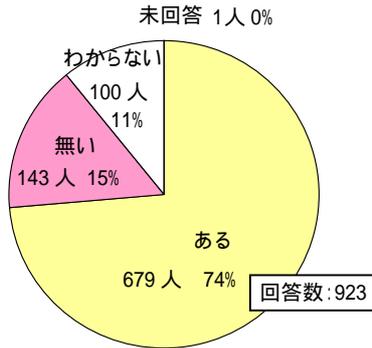
回答の属性は以下のとおり。

- ・ 約65%が男性、約35%が女性。
- ・ 年代は60歳以上が約63%。



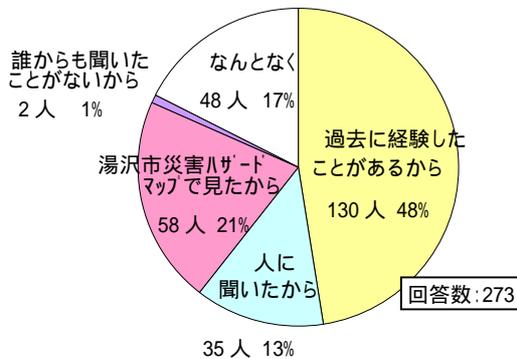
3. 災害ハザードマップの認知状況等について  
 災害ハザードマップを知っていると答えた割合は約85%であるが、  
 ・ハザードマップが家にあると答えた人は約10%少ない約74%、  
 ・いつでも取り出せる場所にあると答えた人はさらに約10%少ない約62%、  
 災害ハザードマップを知っているが、家にはないと答えた人の中には、再配布を望む意見があった。

問2 「湯沢市災害ハザードマップ」はあなたの家にありますか



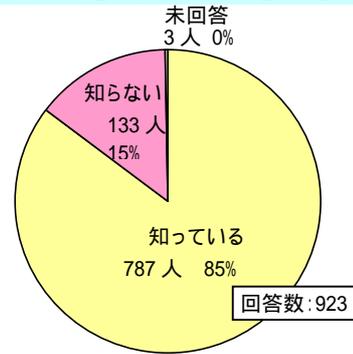
4. 住んでいる場所の安全性の認識について  
 アンケート回答者の住んでいる地域の安全性に対する認識は、安全だと思うが半数以上の約56%、危険だと思うが約29%、よくわからないが約15%である。  
 回答した理由について、安全、危険ともハザードマップを見たからと答えたのが約20~25%であり、危険と答えた人の約半数(48%)は過去に経験したことがあるからと回答している。

問5 洪水または土砂災害に対して危険だと思うと回答した理由(複数回答)



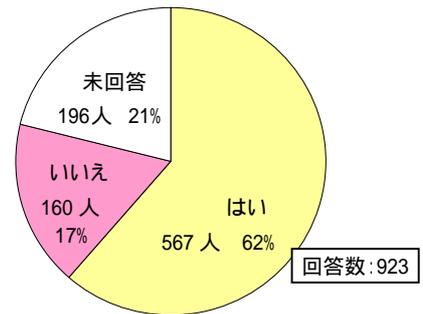
問1

あなたは、「湯沢市災害ハザードマップ」を知っていますか



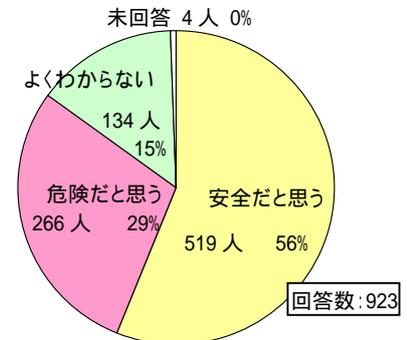
問3

「湯沢市災害ハザードマップ」は、いつでも取り出せる場所においてありますか(ハザードマップが家にあると答えた人のみ)



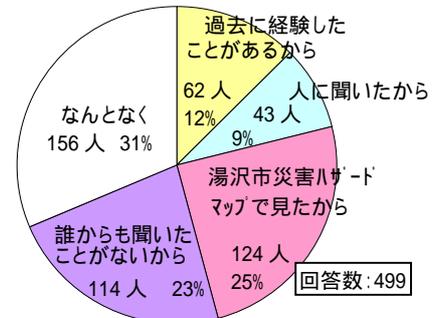
問4

あなたの住んでいる場所は、洪水または土砂災害に対して安全だと思いますか



問5

洪水または土砂災害に対して安全だと思うと回答した理由(複数回答)

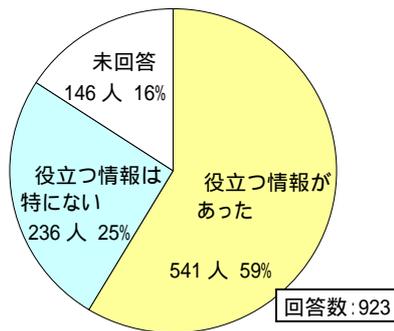


## 5. 災害ハザードマップの記載情報について

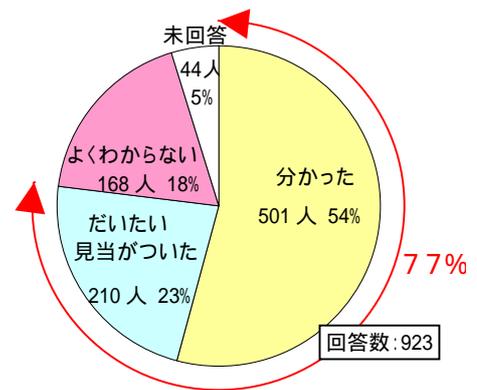
災害ハザードマップで避難場所がわかったと答えたのは半数以上の約54%で、だいたい見当がついたを含めると約77%の人が確認できたことになるが、約18%はわからないと答えている。

また、記載情報の中に役立つ情報がありましたかという問いに対しては約59%があったと答え、その主な情報は、「避難場所」「浸水区域」「土砂災害箇所」となっている。

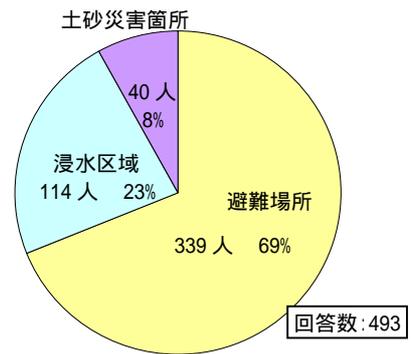
問7 「湯沢市災害ハザードマップ」には、あなたにとって役立つ情報がありましたか。



問6 災害時に避難する場所が、「湯沢市災害ハザードマップ」でわかりましたか。



問7 役立つ情報は何か(複数回答)



## 6. 避難行動等について

これまで実際に避難勧告等の指示を受けたことがあると答えたのは約5%で、ほとんどが受けたことがないと答えている。

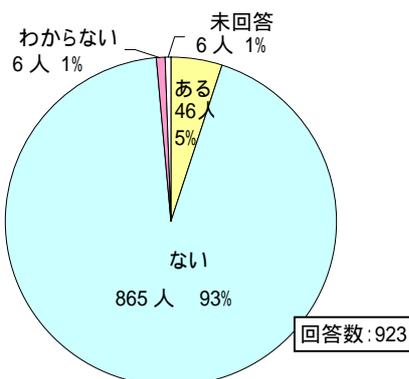
また、実際に避難をした経験についても約8%であり、ほとんどが避難したことがない。

避難勧告等の避難に関する情報がどのような方法で伝達されるかと思っているかとの問いに対しては、約半数の約46%が「市の広報車」と回答しており、次に「ラジオ・テレビ」が約21%と回答している。

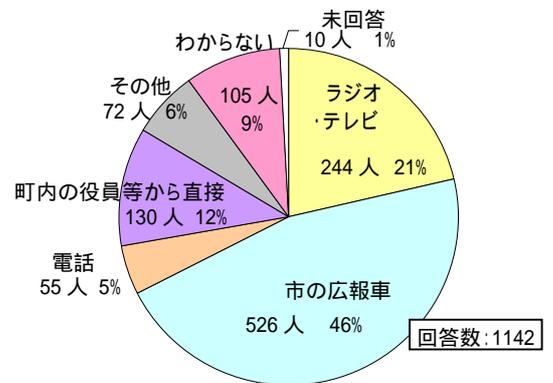
また、わからないとの答えが約9%あり、答えた人の中には、伝達方法を広報誌等で教えてほしいとの意見もあった。

特徴的な回答では、旧皆瀬村在住の回答者には「防災無線」との回答が多かった。

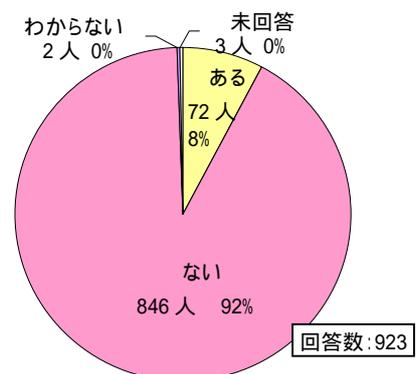
問8 これまでに避難勧告・避難指示等を受けたことがありますか。



問10 洪水・土砂災害時は、どのような方法で避難情報等が伝達されるかと思っていますか。(複数回答)



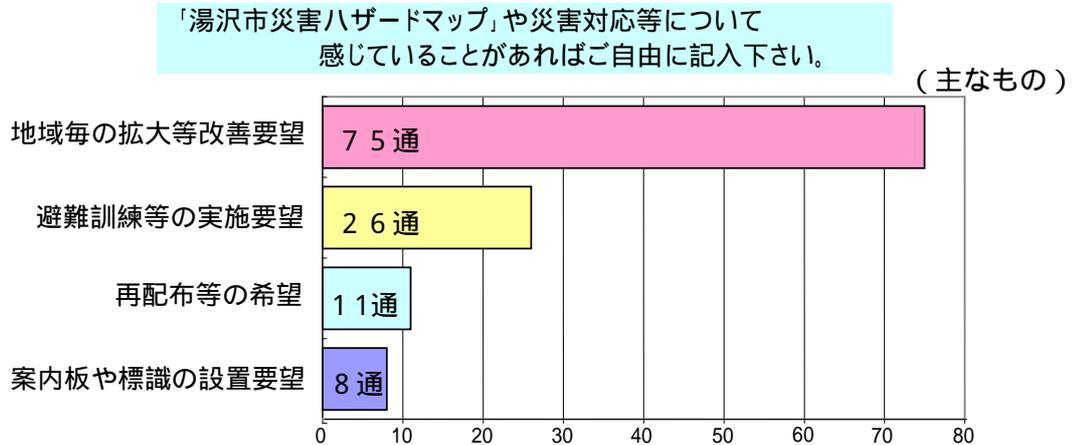
問9 これまでに洪水・土砂災害・地震等により実際に避難したことがありますか。



## 7. 自由意見について

自由意見の欄に何らかの記入をいただいたのが410通あり、その中で多かった意見は、「災害ハザードマップが大きすぎる」「地域版がほしい」等、扱いやすさの向上に関する意見が多かった。

この他、地域防災力の向上のため避難訓練を実施して欲しい、避難所までの案内板等の設置を要望する、文字がわかりにくい、避難場所が遠い、避難できるか不安、高齢者の対応は考えているのか、町内会単位等での説明会を実施して欲しい、このアンケートを機会にあらためて見直した、無くしたので再配布を希望するなどいろいろな意見があった。



## 7. アンケート調査結果からの改善提案等

### 地域版について

マップが大きすぎるや地域毎のマップを希望している状況から、地域版の作成配布が望まれるが、予算的な制約を踏まえ、広報誌を活用し、各号に1~2地域毎に掲載していく方法が考えられる。

また、同じものを市役所や各支所の窓口にコピーを置いておき、市民がいつでも持ち帰れるようにする。(再配布希望にも対応できる)

### 記載内容について

高齢者からの回答から、文字の拡大等について検討する必要がある。

### 避難行動について

災害ハザードマップには、避難情報の伝達の仕方や種類等について記載してあるが、よくわからないとの回答も約1割あることから、避難情報の発表から避難完了までの流れをより具体的に、広報誌等で説明してはどうか。

### アンケート調査結果の共有

アンケートの自由意見の中には、地域ごとの防災体制等の改善につながる意見等もあることから、市職員や市民とこの情報を共有し、よりよい防災体制の構築(自主防災意識の結成等)につなげていけるようにする。